

1. 研究課題名：

持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発



2. 研究代表者氏名及び所属：

柳 哲雄

(公財) 国際エメックスセンター 特別研究員

3. 研究実施期間：平成 26～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

生物多様性に関する愛知目標では海洋保護区 (MPA) の設置が求められているのに対して、それに関する環境行政面からの対応の遅れがある。

本研究では、沿岸海域とその後背地である陸域の自然・人間活動を総合的にとらえ、物質循環・エコトーンのあるべき姿に対して、現状を如何に改変することが必要か、具体的な提案を行い、わが国における沿岸海域環境管理手法を提案する。

陸域に近い沿岸海域における海域環境管理手法を構築するに当たって、(1) 閉鎖性海域の代表としての瀬戸内海、(2) 開放性内湾である志津川湾などが連なる三陸沿岸海域、(3) 国際的な閉鎖性海域としての日本海の沿岸部、をモデル海域として、沿岸海域環境管理にむけた方針を確立する。さらに、(4) 社会・人文科学的な考察も加えて、平成 27 年度からは(5) 沿岸海域管理のための統合数値モデル構築を開始する。

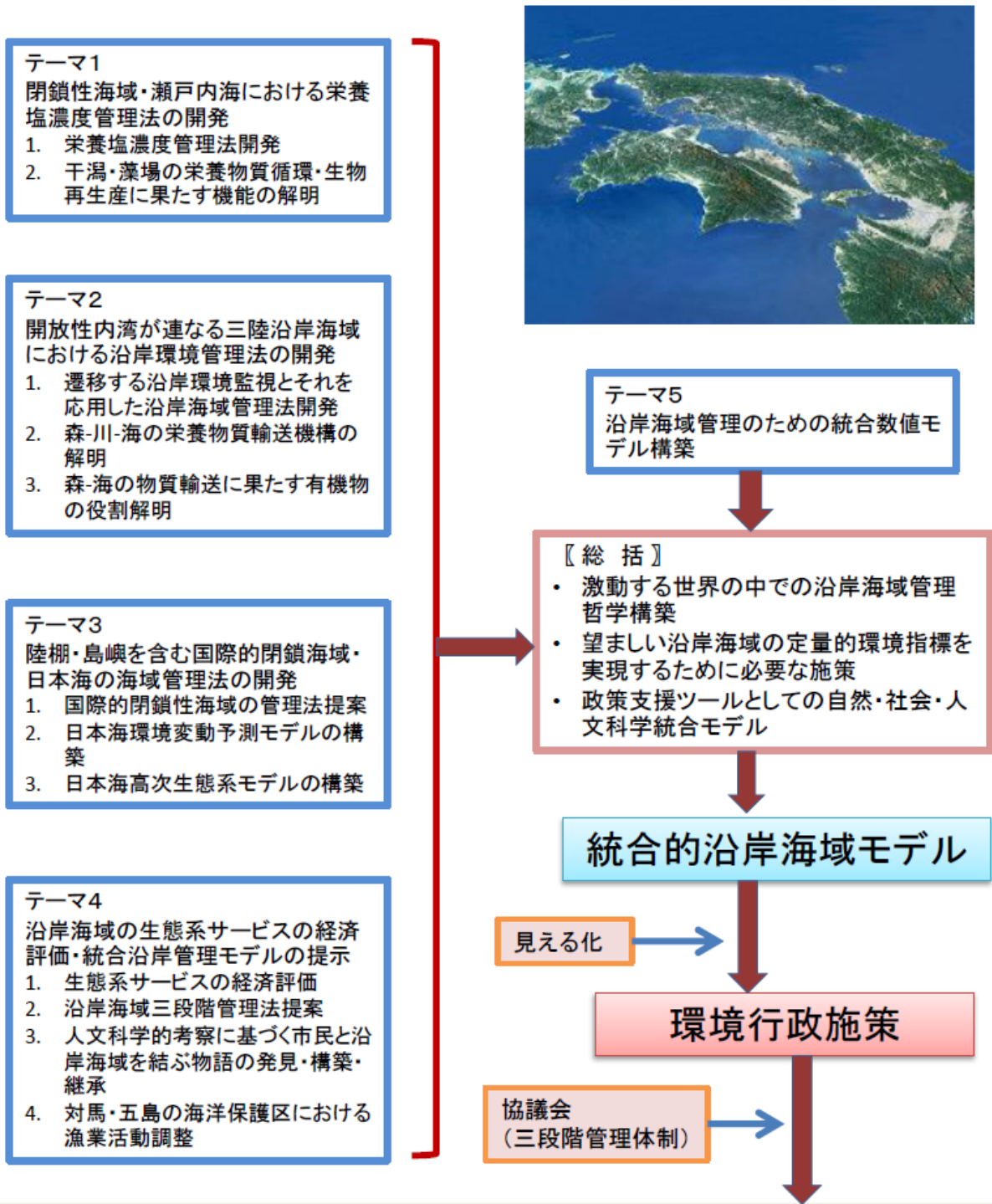
これらの研究により、具体的な沿岸海域環境管理に対する手法の提案を行う。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 全体統括と沿岸海域管理のための統合数値モデルの構築 ((公財) 国際エメックスセンター)
- ② 栄養塩濃度管理法開発 (広島大学)
- ③ 干潟・藻場の栄養物質循環・生物再生産に果たす機能の解明 (香川大学)
- ④ 遷移する沿岸環境監視とそれを応用した沿岸海域管理法開発 (東京大学)
- ⑤ 森-川-海の栄養物質輸送機構の解明 (北海道大学)
- ⑥ 森-海の物質輸送に果たす有機物の役割解明 (東京工業大学、東北大学)
- ⑦ 国際的閉鎖性海域の管理法提案 ((公財) 環日本海環境協力センター)
- ⑧ 日本海環境変動予測モデルの構築 (名古屋大学、九州大学)
- ⑨ 日本海高次生態系モデルの構築 (愛媛大学)
- ⑩ 生態系サービスの経済評価 (立命館大学)
- ⑪ 沿岸海域三段階管理法提案 (近畿大学)
- ⑫ 人文科学的考察に基づく市民と沿岸海域を結ぶ物語の発見・構築・継承 (愛知大学)
- ⑬ 対馬・五島の海洋保護区における漁業活動調整 (九州大学)

6. 研究のイメージ

持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発



きれいで、豊かで、賑わいのある持続可能な沿岸海域実現